

ぞうさん広場

vol.9
2016秋号



インタビュー
特集

「地域がん診療連携拠点病院」が担う使命 乳腺内分泌外科の取り組み

看護局の活動紹介

看護局教育委員会

新設専門外来のご紹介

甲状腺外科外来

がんセンター特集

緩和ケアチーム

最近の出来事

登録医総会を開催しました!

登録医紹介

新任スタッフ紹介

公式SNSのご案内

こんにちは赤ちゃん

健康食のススメ



地方独立行政法人 堺市立病院機構

堺市立総合医療センター

SAKAI CITY MEDICAL CENTER

ぞうさん広場

第9号 平成28年 9月1日 発行

発行

堺市立総合医療センター

〒593-8304 大阪府堺市西区家原寺町1丁目1番1号

☎ 072-272-1199(代)

こんにちは赤ちゃん/

当センターでたくさんの赤ちゃんが生まれています!



結菜(ゆな)ちゃん
平成28年5月2日生

わが子へのメッセージ

産まれてきてくれてありがとう。
パパとママはとっても幸せです!結菜ちゃんは家族みんなの宝物。幸せを届けてくれてありがとう。



陸翔(りくと)くん
平成28年5月3日生

わが子へのメッセージ

元気に産まれて来てくれてありがとう!たくさんの笑顔に毎日癒されています。これからの成長がとても楽しみです。いっぱい楽しい思い出作ろうね!



結衣花(ゆいか)ちゃん
平成28年5月6日生

わが子へのメッセージ

よく眠り、よく飲み、優しく泣く結衣花(^_^)♡最近ニコニコ笑うようになってきて可愛さ倍増です!いつまでもお兄ちゃんと仲の良い兄妹でいてね。



希羽(ののほ)ちゃん
平成28年5月14日生

わが子へのメッセージ

のんちゃんとお出会えてパパとママは幸せです☆生まれてきてくれてありがとう!これからも楽しい思い出いっぱい作ろうね♡

健康食のススメ

鉄欠乏性
貧血の方に

鉄分たっぷりチヂミ

食品に含まれる鉄は、ヘム鉄と非ヘム鉄に分けられます。ヘム鉄は体内への吸収がよく、肉やレバー、魚(特に血合い部分)に多く含まれます。非ヘム鉄は、卵、貝、豆、緑黄色野菜、海藻などに多く含まれ、良質なたんぱく質やビタミンCと一緒に食べることで吸収がよくなります。ビタミンB群、葉酸、銅なども造血や鉄の吸収に欠かせないため、色々な食品を組み合わせることで食べましょう。

栄養価(1人分)

エネルギー 270kcal
塩分 1.1g
鉄 4.2mg



材料(2人分)	牛肉(もも赤身)...	60g	薄力粉.....	大さじ3	A	
	小松菜.....	80g	片栗粉.....	大さじ3		
	乾燥ひじき.....	5g	水.....	大さじ3		
	桜えび.....	3g	ごま油.....	小さじ1		
	ごま油.....	大さじ1	塩.....	小さじ1/6		B
	卵.....	1個	酢.....	大さじ2		
			醤油.....	小さじ1		

【作り方】

- 小松菜は1cm幅に、牛肉は小さく切る。ひじきは水でもどしておく。
- ボールに卵を溶き、Aを加えてよく混ぜる。
- ②に牛肉、小松菜、ひじき、桜えびを入れて混ぜる。
- フライパンにごま油を熱し、③を流し入れて、薄く広げる。焼き色がついたら裏返し、軽く押さえながらこんがり焼く。
- 食べやすい大きさに切り、酢醤油(B)を添える。



地方独立行政法人 堺市立病院機構

堺市立総合医療センター

SAKAI CITY MEDICAL CENTER

〒593-8304 大阪府堺市西区家原寺町1丁目1番1号 ☎ 072-272-1199(代)
http://www.sakai-city-hospital.jp/

「地域がん診療連携拠点病院」が担う使命 乳腺内分泌外科の取り組み

「チーム医療」と「地域病診連携」で、地域の乳がん治療をリードする、
乳腺内分泌外科の役割と取り組みについて、話を伺いました。

教えて！
病院のお仕事



乳がん治療における、
チーム医療の重要性とは
何でしょうか？

乳がんの診療は、手術・放射線・投薬・心のケア・術後のリハビリケアなど、さまざまな領域が複合的に集まっています。それを今までのように、医師がすべて行うことは非常に難しく、なおかつ、医師がすべての分野に精通しているわけではありません。それぞれの分野のエキスパートが、それぞれの専門分野を担当し、それらを合わせて一つの診療体制にすること。そこにチーム医療の根本となる趣旨があります。さらに、その



▲女性技師による乳腺エコー検査

乳がん看護認定看護師
濱口 佳子 看護師



乳腺内分泌外科 部長
神垣 俊二 医師

チームを高いレベルで維持するためには、それぞれの専門家が、「患者さんをより良い方向に導きたい」という共通の目的を持ち、互いに敬意を払いながら、意見交換しやすい雰囲気や環境づくりが重要だと考えます。

ら治療を受けるにあたって心配なことなどを、具体的にお聞きします。そして、それを一緒に考えて、解決していけるようなシステムを取っています。

地域病診連携について
お聞かせください。

女性のための
メンタルケアにも
取り組まれていますね。

当院では、乳がんを告知する際、必ず認定看護師が同席し、その時の患者さんの反応をみながら、先生と対話するためサポートをしています。医師の説明に不安がないか、これか



▲看護師による補整下着、乳房パットの説明

多くの方がイメージされる「がん診療」は、手術・投薬治療・その後のフォローも、一貫して大きな病院で専門医療を受ける、というものだと思います。しかし、近年は患者さんが増え、病院がパンクしてしまうことになりかねない状況です。つまり、当院でしかできない専門的で高度な医療を、新たにがんを患った方に対して、平等に提供できないということになります。ですから、当院に通い続けなければいけない患者さんと、フォローしていただける近隣の開業医の先生方にお願ひできる患者さんを役割分担することで、地域の方すべてに平等で適切な医療が提供できるので、さまざまな臨床試験の結

乳腺内分泌外科とは？

「乳腺症」「良性の乳腺腫瘍」「悪性の乳腺腫瘍」など、乳腺疾患全般を診療している科です。中でも、悪性の乳腺腫瘍である「乳がん」は、最も重要な治療項目です。

乳腺内分泌外科医と乳がん看護認定看護師をリーダーに、がん専門薬剤師や超音波検査士・化学療法専門看護師など、専門資格を持つスタッフが、乳腺チームを組んで診療にあたっています。また、検査に関わる技師すべてが女性であるという点は、特に当院のアピールポイントでもあります。

果、大きな病院でフォローする場合と、開業医の先生でフォローする場合、患者さんの命の長さには差がないことがわかっています。また、最初に患った分野のみ診療する我々だけでなく、他の成人病を含む、多くの疾患に関して、広く診つづけてくれるホームドクターは、患者さんにとって非常に頼れる存在です。こうした「ダブル主治医体制」で、地域の開業医の先生方との病診連携を推進しています。

今後の課題は何ですか？

近隣だけでなく、遠方からもたくさんのお患者さんに来ていただき感謝しています。ただ、そのために、手術待ちの時間が長くなってしまっているのが、そこを改善していくのが課題です。また、遺伝に関連した乳がんを、どのように見つけくかというところは、学会を中心とした、最先端医療の現場で注目されているところです。より上

女性の皆さまへ
メッセージをどうぞ。

乳がんは決して怖い病気ではありません。早期に発見することができれば、完治の可能性が高くなるということが、すでにわかっています。ただし、早期の状態で見つけるためには、「正しい」検査を行うことが重要です。「正しい」というのは触診やエコーだけでなく、マンモグラフィーを施行する乳がん検診のことです。大切な人、そして自分のために、1年に1回「正しい」乳がん検診を受けてください。



▲乳がん手術後のリハビリテーション

看護局ではこんな活動をしています！



「看護局教育委員会」

看護師は常に命と向き合い、患者さんやご家族の大切な人生に関わる重要な役割を担っています。専門職として、質の高い看護技術を備えた看護師に成長するためには、免許を取得した後も、生涯にわたって継続して学習することが重要になります。

現在、当院では600人以上の看護師が働いています。その中で、看護師の全体的な教育体制を検討し、企画・運営しているのが「教育委員会」です。メンバーは、大学や研修で教育に関する知識を修得した師長や副師長で構成されています。



看護局教育委員会は、新人から経験豊富な看護師まで、ひとり一人のレベルに合わせた教育の方法を企画・実施し、個々の看護の知識や技術向上を目的として活動しています。新病院では「シミュレーションセンター」が設置され、採血や痰をとる練習ができる人形を導入するなど、さまざまな技術を繰り返し練習することが可能になりました。経験が未熟な新人看護師は、先輩からの指導や定期的なシミュレーターの活用など、研修しながら日々、看護の実践能力を高めています。

国は施策として、地域包括ケアシステムの構築を推進しています。つまり、これからは、住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい暮らしを人生の最後まで過ごすことができるよう、地域の包括的な支援・サービスの提供体制が重要だと考えられています。そこで、地域のみならずが地域のどこでも安心して生活できるように、医療機関が互いに看護の知識や技術を常に高めていくことが大切になります。そのため、私たちは院内だけでなく、地域の医療機関の看護師と一緒に学ぶ機会を設け、参加を呼び掛けています。他の医療機関の方々とともに学び教えあい、お互いの成長つなげて、さらに、地域全体が発展していくことをめざしているのです。

たとえば、新人研修の受講を希望している、近隣の医療機関の看護師に参加してもらい、一緒に学習するといった活動を行っています。新人対象だけでなく、当院で活躍する、がん・救急など16領域にわたる専門・認定看護師と呼ばれるスペシャリストが、その専門的な知識や経験を活かして、勉強会を開催しています。現在、院内外からたくさんの方々が参加し、意見交換や演習などを行っています。さまざまな場で活躍する看護師と、「コミュニケーション」を深めながら、情報交換などを行うことで、当院や地域での看護実践を知ることにもつながります。



看護局次長教育担当
金山千明

り、その後の看護において役に立っています。さらに、当院は臨床研修病院として、十数箇所の大学や専門学校での看護実習や助産実習などを受け入れ、多くの学生が学ぶ環境も整えています。現場で看護学生の臨床指導を行いながら、「看護」を伝え、未来の看護師育成にも貢献しています。

これからも、当院がめざす「安心・安全な医療と、高度急性期医療に対応した看護を提供できる、院内の看護師の育成」に携わり、ともに、未来の看護師育成や、地域との橋渡しも「教育」や「交流」を通じて活動したいと考えています。

堺市立総合医療センターで 甲状腺外科外来を開設しました



「甲状腺外科外来」は、地域の患者さんが甲状腺・副甲状腺に関する診察・検査・治療までできるだけお待たせせず、スムーズに受けられるように開設しました。また、地域の甲状腺内科専門医や当院の内分泌内科専門医とも連携して、治療にあたります。診察日は月・木曜日で完全予約制となります。場所は耳鼻咽喉科・頭頸部外科の外来です。

甲状腺と副甲状腺について

内分泌臓器である甲状腺

「甲状腺ホルモン」は、全身の新陳代謝を活発にします。たとえば肌の潤いを保つ・体温を維持する・腸のはたらきを調整する・心臓の拍動を保つなどです。ホルモンを産生し分泌する臓器なので、内分泌臓器といわれます。

どこにあるの？

くびの「のどぼとけ」の下にあり、蝶々が羽根を広げたような形をしています。

甲状腺のはたらきは？

海草や昆布などに含まれる「ヨード」を材料にして、「甲状腺ホルモン」を産生します。脳の下垂体から「甲状腺刺激ホルモン(TSH)」が甲状腺ホルモンの分泌をうながしています。

副甲状腺って？

甲状腺の裏側に、米粒ほどの大きさで1個50mg程度の副甲状腺(上皮小体と同義)が左右上下に4つあります。副甲状腺ホルモンを産生・分泌して、骨・腎臓・小腸に働き、カルシウムの濃度を一定に保ちます。

甲状腺がんを疑う症状は？

甲状腺がんは進行すると、声のかすれ(嗄声)や飲み込みにくくなるといった症状があります。しかし、「くびにしこりが触れる」以外の症状がないことが多く、痛みもせず、自覚しにくいがんです。一方で、しこりが触れる原因には、橋本病やバセドウ病といった、良性の機能性の甲状腺の病気であることも多いのです。甲状腺のしこりに気づいた際には、一度、専門的な診療をおすすめします。

甲状腺のしこりのための診察・問診・検査

診察はくびの触診です。しこりが硬いと、がんであることが多いですが、硬くない場合もあります。血液検査と家族歴、放射線の被ばく歴なども参考になります。

超音波検査・^{せんし}穿刺吸引細胞診(FNA)

しこりを調べるには、超音波検査・穿刺吸引細胞診検査を行います。図1は超音波検査での甲状腺がんの画像で、図2は穿刺吸引細胞診検査(FNA)の様子です。甲状腺外科外来では、このような診察・検査を行います。手術が必要になるのは、がんの場合や良性でもしこりが大きい場合、機能性疾患(プランマー病や副甲状腺機能亢進症など)の場合です。手術は入院治療で対応しており、手術内容にもよりますが、入院期間は6日間程度です。



図2

担当医師

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 長井 美樹

- 内分外科専門医(日本内分外科学会・日本甲状腺外科学会認定)
- 甲状腺専門医(日本甲状腺学会認定)
- 日本甲状腺外科学会 評議員 ■ 耳鼻咽喉科専門医

診察日時

月曜日/15:30~、木曜日/14:30~ ※完全予約制

地域医療連携を深め、よりよい医療を提供
登録医総会を開催しました!

平成28年7月16日(土)に、ホテル・アゴーラリージェンシー堺にて「第1回 堺市立総合医療センター登録医総会」を開催しました。日頃より患者さんの紹介や逆紹介でお世話になっている、98名の登録医の先生方がご参加くださいました。

当日のプログラム

第1回
堺市立総合医療センター 登録医総会

開催日時 平成28年7月16日(土)
16:00~19:00

会場 ホテル・アゴーラリージェンシー堺
3階「利休」

- ★開会の辞
開会および着任の挨拶 …… 堺市立病院機構 理事長 門田 守人
挨拶 …… 堺市立総合医療センター 院長 花房 俊昭
来賓挨拶 …… 堺市医師会 会長 岡原 猛 様
- ★講 演
①「堺市立総合医療センターの概要」…… 副院長 河野 謙二
②「当院の外科診療について」…… 外科統括部長 藤田 淳也
③「循環器センターのご紹介」…… 循環器内科部長 塚本 幸資
④「脳脊髄神経センターのご紹介」…… 脳神経外科部長 中島 義和
- ★閉会の辞



登録医とは?

当院では、患者さんが地域で安心して継続した医療を受けられるよう、当院と連携・協力して、安全で質の高い医療を提供される医療機関の先生方を「連携登録医」として登録する制度を設けています。この制度にご登録していただいた先生方を「登録医」と呼んでいます。

登録医総会と情報交換会を開催しました!

当院では、厚生労働省が推奨する地域医療連携を推奨しています。地域医療連携とは、市民が近隣地域において、スムーズかつ適切な医療を受けられるように、地域の医療機関すべてが、互いに円滑な連携を図ることです。そのため、市民の身近にあるかかりつけ医、

の普段の健康管理をしてくれる身近な医師のことで。今回、当院の医師と登録医による連携を深めるため、登録医総会を初めて開催することになりました。

当院のような高度専門医療や救急医療を提供する急性期病院、リハビリや慢性期医療を担当する病院が連携をとり、それぞれの機能を有効活用する必要があります。今回ご出席いただいた登録医の先生方はまさに「地域のかかりつけ医」にあたります。「かかりつけ医」とは、診察のほか、健康相談や指導を含めて、さまざまな問題について日常的に相談でき、市民

第1部の登録医総会では新病院開院後の診療実績を報告するとともに、診療機能を紹介することで、登録医に当院のめざす診療体制をご理解いただき、また、第2部の情報交換会では、当院の医師と登録医が顔の見える関係を築くために、コミュニケーションの場を設け、それぞれの考えや価値観を共有することを目的としました。

登録医総会レポート!

〜最適な医療の提供をめざして〜

第1部「登録医総会」

理事長門田守人並びに院長花房俊昭の開会の挨拶が始まり、岡原猛堺市医師会会長より「堺市立総合医療センターは90年以上の歴史を持ち、地域に根差した自治体病院として、地域医療に貢献していただきましたが、これからは、これまで以上に我々医師会や地域の先生方との連携を密にいただき、堺市民の健康を地域全体で守っていくその一端を担っていただければと思います。」との御祝辞をいただきました。その後、副院長河野謙二が当院の全体的な報告を、各診療科部長が外科のがん治療をはじめとした手術実績、循環器センターと救命救急センターの連携、脳脊髄神経センターにおける脳血管内治療など、診療体制やめざしている方向性について講演しました。



第2部「情報交換会」

会場を移して、日頃よりお世話になっている登録医の先生方と当院の各診療科部長が、病診連携について情報交換を行う場を設けました。開会に先駆けて、狭間恵三子堺市副市長、西川正治堺市医師会副会長、岡原和弘堺市医師会副会長より、御祝辞をいただきました。開会後は当院の医師と登録医の間で話に花が咲き、「コミュニケーションが活発になったのはもちろんですが、登録医の先生方同士の「コミュニケーションの場となったことが、何より嬉しく感じました。」

ご参加いただいた登録医の先生方からも、「病院の先生方と直接話ができて、すごく良かった」「紹介状のやり取りだけだったが、実際に診療している先生の顔を見ることができて安心できた」などの嬉しいお声を聞くことができ、今回の登録医総会が地域医療連携に貢献できていると実感しました。



堺市立総合医療センターでは、現在堺市内市外を含め、約750名の先生方に登録医となっていたいております。今回開催した登録医総会や、その他の活動を通じて、これまで以上に登録医の先生方との地域医療連携を深め、地域全体で市民の健康を守っていけるよう努めて参ります。



当院の登録医の先生をご紹介します



西区浜寺南町
ますたに クリニック
 榎谷 誠三 院長



中区深井沢町
甲状腺・内分泌 辻本クリニック
 辻本 直之 院長



堺区神明町
レディース クリニックハ木
 八木 潤子 副院長



堺区住吉橋町
池上医院
 池上 雅久 院長

◆ **当院の特長**
 地域の患者さんとかかわりが強いのが特長です。専門は消化器系外科ですが、臨床内科医としての経験も積んできました。最近では循環器系の診察で来られる患者さんも多いです。がん治療に関しては、早期診断や術後の定期検査・セカンドオピニオン(今かかっている医師(主治医)以外の医師に求める第2の意見)の相談も受けています。特別に打ち出しているわけはありませんが、漢方薬治療をご希望される患者さんには、適切な範囲内の処方を行っています。

◆ **私の診療モットー**
 開業してから、基本的にEBM(医師の経験や主観だけでなく、科学的根

◆ **当院の特長**
 甲状腺や内分泌疾患の専門クリニックで、最新の設備を備えています。免疫検査分析装置を導入しており、甲状腺のホルモンなどが約1時間で測定できます。検査結果をその日のうちにお知らせすることで、通院回数が少なくて済むようになり、治療の開始や投薬量の変更などがスムーズに行えます。甲状腺エコーで腫瘍が見つかった場合、なるべく痛くない方法で穿刺吸引細胞診を行い、患者さんの負担を減らします。専門医が少ない分野です。で、堺市外からの患者さんも多くいらついています。手術や放射線治療が必要な場合は、他の病院と連携をと

◆ **当院の特長**
 医師およびスタッフは、すべて女性です。私は、市立堺病院(現堺市立総合医療センター)の産婦人科に17年間勤めた産婦人科専門医で、婦人科(思春期・更年期、一般不妊症、妊婦検診を含む)、一般内科、乳腺外来(要予約)、美肌外来などに対応しています。子宮がん、乳がん検診にも力を入れ、ブライダルチェック、男女うみわけ、外陰部整形手術、4D胎児立体エコーや、血液検査によるがんスクリーニング検査にも対応しております。また、堺市の子宮がん精密検査実施協力医療機関でもあります。

◆ **当院の特長**
 周辺に専門医院が少ないため、泌尿器科には、広い地域から来院されています。その反面、もともと父がやっていた内科を引き継いでいるので、地域の方々の相談には専門以外の些細なことでも応じています。午後は主にバールン交換を中心に行診も行っており、堺の湾岸沿いの地域にまで出向いています。また、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入した堺市立総合医療センターの先生方とは、常にやり取りしながらご協力いただいています。

◆ **私の診療モットー**
 私自身「原因が分からない」という

拠に基づいて診療方法を選択すること)をベースに治療しています。また、最近では患者さんのライフスタイル、特に高齢になってくると、ご本人の人生観が固まっておられますので、それに合わせた治療ができるように心がけています。

◆ **地域の皆さんへのメッセージ**
 不安なことがありますしたら、一人で悩まず、ご相談にいらしてください。話をすることで気持ちがいぶん楽になりますし、医師の立場からアドバイスできることもあります。必ずしも治療することを前提としているわけではありません。とにかく一度お話を伺って、できる限りのお力添えをしていきたいと思います。

◆ **私の診療モットー**
 「患者さんにやさしい診療」を心がけています。専門的な医療を、より多くの患者さんに提供することで、地域の医療に貢献できるよう精進してまいります。

◆ **地域の皆さんへのメッセージ**
 甲状腺の病気をお持ちの患者さんは多いのですが、うつ病や更年期障害など、他の疾患と思われるり、経過観察が必要でありながら自覚症状が軽く、放置されている場合も多く見受けられます。気になることがあれば、お気軽に来院ください。

◆ **私の診療モットー**
 かかりつけ医として気軽に相談していただける、心と体にやさしいクリニックです。がんおよび整形手術対応疾患以外では、できるだけ手術をしない方向で、患者さんともに治療を工夫しています。また、女性ホルモンに関する疾患も多く診療し、心と体に深く関わるお悩みを、優しくサポートしています。さらに、更年期過ぎより急増する高血圧、高脂血症、動脈硬化、骨粗鬆症、子宮脱などの診療にも力を入れ、「若く元気で美しく」をモットーに、再来年白寿を迎える院長とともにがんばっています。女性が行う女性のためのトータルケアで、職員一同、心よりご来院お待ちしております。

◆ **地域の皆さんへのメッセージ**
 ある程度、身体に異常があらわれているようでしたら、泌尿器科以外でもご相談に応じますので、遠慮なく来院してください。地域に密着した医療をいっしょに心がけ、少しでもお役に立ちたいと思っています。



診療科目 / 内科、消化器科
 診察時間 月 火 水 木 金 土 日
 8:30~13:00 ○ ○ ○ / ○ ○ /
 17:00~20:00 ○ / ○ ○ / ○ ○ /
 堺市西区浜寺南町3-2-1 浜寺メディカルスクエア1F
 ★南海本線「浜寺公園前駅」より徒歩約10分
 TEL:072-267-7564
 http://masutani-cl.com/



診療科目 / 甲状腺・内分泌内科、心療内科、精神科
 診察時間 月 火 水 木 金 土 日
 9:30~12:30 ○ ○ ○ ○ ○ ○ /
 15:30~18:30 ○ ○ / / ○ ○ /
 堺市中区深井沢町3258
 ★泉北高速鉄道「深井駅」より徒歩約2分
 TEL:072-247-7602
 http://www.tsujimoto-cl.com/



診療科目 / 婦人科、内科
 診察時間 月 火 水 木 金 土 日
 9:00~12:30 ○ ○ ○ / ○ ○ /
 16:00~19:00 ○ / / / ○ ○ /
 堺市堺区神明町西1-1-17
 ★阪堺線「神明町駅」より徒歩約1分
 TEL:072-233-5630
 http://yagi-clinic.jp/



診療科目 / 泌尿器科、皮膚科、性病科、内科
 診察時間 月 火 水 木 金 土 日
 9:00~11:30 ○ ○ ○ / ○ ○ /
 17:00~19:00 ○ ○ ○ / ○ ○ /
 堺市堺区住吉橋町1-5-3
 ★南海本線「堺駅」より徒歩約5分
 TEL:072-232-1702
 http://www.ikegami-cl.com/

新しいスタッフを紹介します!

当センターの形成外科に新しくスタッフが着任しました。よりよい診療体制の整備に向けて、新しい仲間とともに当院の理念である「全ての患者さんの権利と人格を尊重し、安心・安全で心の通う医療の提供」をめざし、今後も務めてまいります。



形成外科

科長

門脇 未来(かどわきみき)

【専門分野】

頭頸部再建
四肢外傷
下肢静脈瘤



★形成外科について

いわゆる皮膚外科です。ホク口の除去、体の変形、先天奇形、外傷、手術による二次的な変形などを治していく診療科です。人体の外表を元のあるべき形に戻す、または近づけるといった「形を作る外科」です。

また、応急的な治療も行います。救急対応後の治療が多いです。なぜなら、当院のような三次救急(一刻を争う重篤な救急患者に対応する医療)に対応する救命救急センターでは、まず救急で初期治療を行い、継続的な治療は形成外科で行うことが多いからです。

★専門分野について

【頭頸部再建】

耳鼻咽喉科や歯科口腔外科で腫瘍を摘出し、顎の骨や舌、喉の一部がなくなった場合、組織を他の部位から移植します。例えば、顎の骨であれば足の骨を、舌であれば大ももや腕の皮膚に厚みをつけて移植します。その際、ただ移植するのではなく、顕微鏡を使って血管をつなぎ、組織が壊れないようにする「血管吻合」という処置は、形成外科における重要な任務です。

【四肢外傷】

骨がむき出しになった骨折は、皮膚が完全に壊死し、骨髄炎という二次的な合併症になってしまうので、別の部位から組織を移植します。

【下肢静脈瘤】

高齢者の6〜7割が発症するといわれており、病気だと思っていない潜在患者さんが多いです。症状として一番わかりやすいのは、血管が浮いていることです。また、足がだるい、歩くと足が重く感じる、朝に比べて夕方異常にむくむ、こむら返りが起こるなど「おかしいな」と思ったら、お近くの診療所に相談ください。

★めざすべき方向性

救急車で四肢外傷の患者さんも多く搬送されるため、他診療科の医師との迅速な連携を図る必要があります。緊急時に備えて、日頃から良い関係性を築き、診療につなげていきます。

★皆さんへのメッセージ

相談しやすい、かかりやすい環境をめざしています。気になることや聞きたいことは、どんなに些細なことでも遠慮なく相談してください。

堺市立総合医療センターの緩和ケアチーム

当院では、2006年に緩和ケアチームが発足し、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療相談員、スピリチュアルケアボランティアと、チームは多職種で構成されています。身体の症状はもちろんですが、不安な気持ちや療養場所に関する迷いなど、さまざまな「つらさ」や「悩み」に対応しています。



治療の段階にかかわらず、より多くの方々が緩和ケアを利用できるように

がんの診断時から治療期など、病期のどの段階においても、より多くの方々に緩和ケアを提供できるように、チームで連携をとりながら、日々活動を行っています。

具体的には…

● 問診票による症状の確認

病棟や外来化学療法室で、「生活と症状の問診票」を用いて、身体症状や気持ちのつらさなどを確認しています。状況に応じて、チームによる支援を開始します。

● チームで行う多方面からのケア

毎週1回のカンファレンスでは、治療できるか、生活面でのサポートは必要か、身体機能の維持が可能か、地域との連携を早めに考えていくべきか、気持ちの揺れ動きがある状態であれば精神的支援が必要ではないかなど、医師、看護師、リハビリ部門、地域連携、臨床心理士がそれぞれの視点で意見を出していきます。スピーディに多くの考えが反映され、患者さんにとってより良い介入を実現します。

● 回診や訪室によるケア

入院中は、緩和ケアチームの回診や緩和ケア認定看護師の訪室によって、身体的・精神的な苦痛の緩和が図られるよう、主治医・病棟看護師などと連携をとり、カンファレンスなどで問題点を共有しながら支援しています。

● 外来でのケア

緩和ケア外来では、週2日の診療・面談を行っています。

緩和ケア外来

身体の苦痛な症状に関して、主治医と連携をとりながら、緩和できる方法を探っていきます。また、「眠れない日が続く」「イライラする」など、ストレスや心配事に関して、お話を聞きながら問題点を整理したり、必要に応じて薬での治療を行うことで、多くの方々がストレスと上手に向き合うことができます。

「緩和ケアチーム」

がんセンター 特集

緩和ケアとは

重い病を抱える患者さんや、そのご家族ひとり一人の身体や心などの、さまざまなつらさを和らげ、より豊かな人生を送ることができるよう支えていくケアのことです。身体や心のつらさが強いときは、病気に向き合っていく力が湧いてこなくなってしまう。これらを和らげることは、治療を続けていくためにも大切なことです。早期から「つらさを和らげる」緩和ケア」を始めることで、生活の質が改善され、予後にも良い影響があるという調査報告もあります。

堺市立総合医療センター 公式SNSのご案内

公式ホームページ
<http://www.sakai-city-hospital.jp/>

最新情報満載!
フォローしてね



Facebookでいいね!

<https://www.facebook.com/sakai.city.medical.center/>



LINEで友だち追加

<http://accountpage.line.me/okn3978i>



Twitterでフォロー

https://twitter.com/Sakai_CMC



Google+でフォロー

<https://plus.google.com/114988341092655734472/about>

